

会報の刷新について



編集委員長
藤浪 真紀

Masanori FUJINAMI

(千葉大学大学院 工学研究科)

日本陽電子科学会会報は、これまで、共同施設案内、国内・国際会議案内、研究室紹介などを通じて、会員間の情報交換の場としての役割を果たしてきました。陽電子は物理・化学・医学・材料といった様々な分野で活用されていますが、さらなる普及や研究の発展のためには、各分野の活動を相互に見渡せる環境を醸成することが重要です。

そこで本会理事会は、会報を研究者のすそ野拡大や分野間の相互理解深化のための媒体とするべく、そこに陽電子関連の科学に関わる記事を掲載していくことを決定しました。会報名を「陽電子科学」に改め、新たに設置した編集委員会が、掲載内容の企画、記事の依頼および査読等の編集業務を担当します。本年4月19日に第一回会合を開催し、本号および次号の掲載記事を決め、執筆依頼をするところから活動を始めました。それから4か月間という本当に短期間で本号を刊行できたことは、執筆者、査読者、各編集委員の多大なるご協力・ご支援の賜であり、深く感謝申し上げます。このような陽電子をテーマとした定期的な冊子体の発刊という試みは世界初ではないでしょうか。これが実現できたのは、国内陽電子コミュニティの、科学・技術レベルの高さのみならず、実行力・団結力の強さゆえと大変心強く感じております。

新しい会報では「入門講座」欄および「最近の研究から」欄を科学記事の柱と位置付けています。陽電子研究の基礎を紹介する「入門講座」では、その名の通り初心者や他の分野の研究者にも読みやすい記事を目指しています。陽電子に初めて接する学生、企業の研究者や技術者の方々にお勧めですが、陽電子エキスパートにも十分読み応えのある内容となっています。今後、十を超える入門講座の掲載を予定しています。「最近の研究から」では、陽電子に関わるホットな話題を他分野の読者にも理解しやすいよう紹介します。物理、科学、医学、材料などの幅広い分野における多彩な陽電子の活躍が楽しみな記事です。

これらの記事は冊子体ではモノクロですが、WEB版ではカラー化したPDFファイルで取り出すことができます。是非、そちらもご覧ください。なお、WEB版へのアクセスは、パスワードにより本会会員のみにも制限されていますが、発刊後2年目以降はフリーアクセスとなる予定です。

もちろん従来の交流会の案内、各種国内国際会議案内・印象記、共同利用機関案内、研究室紹介なども引き続き掲載し、研究活動のための情報提供をしていきます。さらに、会員交流の場として、「会員の声」欄を設け、会員からの寄稿を掲載していきたいと思っております。会員のご意見お待ちしております。

最後に、新装第1号ではありますが、試行錯誤の手探り状態で発刊にこぎつけた、というのが正直なところですが、皆様におかれましては、本号をご覧いただいた後、是非忌憚のないご意見を編集委員会までお寄せください。そういった貴重なご提案を取り入れながら、会報の充実につなげていきたいと存じます。また、編集委員会からは今後会員の皆様に執筆依頼、査読依頼などお願いすることになりますが、ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。